

I 福祉用具サービスの維持発展に向けた活動

公明党厚生労働部会の福祉用具貸与事業所視察に協力
自民党議員を訪問し現行の福祉用具サービスの維持を要望



2015.10.7・8・9 in 東京
II H.C.R.2015 国際福祉機器展
～ふくせんワークショップ～

2015.10.8 in 東京
III 福祉用具の日記念イベントを開催
記念講演 / 福祉用具専門相談員実カラン
キングテスト上位者表彰式

2016.2.12・13 in 東京 2015.10.22・23 in 大阪 2015.11.13・14 in 東京
IV SVフォローアップ研修 / SV養成研修開催 本年度は74名のSV誕生!
※ SV (スーパーバイザー)

2015.8.1～in 鹿児島 2015.11.21～in 青森
V 福祉用具プランナー研修開催

2015.11.12 in 世田谷区 (東京)
VI 福祉用具訪問調査について講演

2016.2.6・7 in 東京
VII シーティング講習会を開催

VIII 会員ピックアップ 雷 俊峰 氏
(株)ライフ・テクノサービス(三重県)

* 研修ポイント制度事務局通信 * マイページに、「選択」して「印刷」できる機能登場!

研修ポイント制度に「選択印刷」機能を付与しました。「前から印刷機能はあったのでは…?」そう思っていた方もいるかもしれません。そのとおり、印刷機能は以前からありました。

ただ!今回注目していただきたいのは、「選択」して印刷できることです。以前からあった機能は、決まったフォームで、決まった項目が印刷されます。一方、新しく付与した機能は、印刷したい項目——たとえば「氏名」と「所属」と「研修履歴」だけ——を選択することができるのです。

ご利用者に自己紹介するときはこの項目、ケアマネジャーにアピールするときはこの項目、職場に提出するときはこの項目…などなど、ニーズに応じた活用が可能です。

「選択印刷」機能は、マイページ (ログインして自分だけが見られるページ) でのみ使っていただけます。ぜひ試してみてください(*^^*)

* 事務局通信 * 平成 27 年度老健事業進捗状況

本会では、本年度、厚生労働省老人保健健康増進等事業の助成を受けて、「専門的知識・経験を有する福祉用具専門相談員の配置に向けた研修カリキュラム等に関する調査研究事業」に取り組んでいます。

この事業は、福祉用具貸与事業所に配置されている福祉用具専門相談員の一部について、「より専門的な福祉用具専門相談員 (仮)」とする (※将来的な議論であり現段階での決定事項ではありません) ことも視野に入れて、養成カリキュラムを検討するものです。本年度中にカリキュラム (案) を整理し、報告書にまとめる予定です。

★報告書は本会ホームページに掲載します (http://www.zfssk.com/sp/1302_chosa/)

公明党厚生労働部会の福祉用具貸与事業所視察に協力——議員が福祉用具などを体験——

2016
2/1
(東京)

去る2月1日、公明党厚生労働部会が、本会協力のもと、福祉用具貸与サービスについて事業所視察を行い、福祉用具体験や本会役員等との意見交換を行った（於：ヤマシタコーポレーション東京東営業所〔東京都江東区〕）。財務省から「軽度者の福祉用具利用の自己負担化」等について提案されるなか、本会からは、「福祉用具は介護度に関係なく利用者に必要なサービス。これまでどおり軽度者も給付対象とすべき」と要望を伝えた。

公明党から参加したのは古屋範子副代表（厚生労働部会長）、高木美智代衆議院議員、矢倉克夫参議院議員、佐々木さやか参議院議員。このほか、江東区議会公明党全メンバーや秘書



▲（左から）古屋範子副代表（部会長）、高木美智代衆議院議員、矢倉克夫参議院議員、佐々木さやか参議院議員

など、総勢20名近い参加があった。財務省から「軽度者の福祉用具利用の自己負

担化」等について提案されているなか、古屋副代表からは、冒頭、「どういう形で要支援・要介護高齢者を守っていけばよいのか、現状や課題、今後の議論の方向性などを学ばせていただきたい」と挨拶があった。

福祉用具サービスの概況や専門職の役割を知る

勉強会では、岩元文雄理事長から、福祉用具における保険給付の状況をもとに、福祉用具が多くの方に必要とされていること、特に多くの要介護2の方が、福祉用具を活用していることを説明した。中川敬史理事からは、たくさんさんの福祉用具の中から、福祉用具専門相談員が専門性をもって、個々に合わせた選定・調整を行っていること、給付対象であるからといって、専門職が関わり、適切な利用が実現できてい

財務省案「軽度者への福祉用具貸与の在り方」

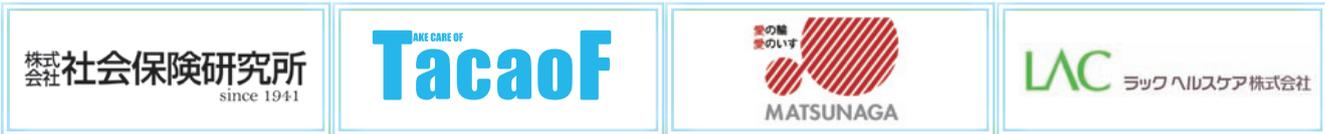
- 改革の具体的な方向性（案）※要約
- ①貸与価格の見直し…標準的な利用料を基準貸与価格として設定する。保守管理サービス等は貸与価格とは分けて枠組みを検討し、事業者間の適正な競争を促進する。
- ②貸与機種のスペックの在り方の見直し…要介護区分ごとに標準的な貸与対象品目を決定し、その範囲内で選定する仕組みを導入する。
- ③負担の在り方の見直し…軽度者（要支援1〜要介護2）を原則自己負担（一部補助）とし、福祉用具貸与に係る保険給付の割合を大幅に引き下げる。

ることを伝えた。

金沢善智理事は、具体的な数字で福祉用具のコストパフォーマンスの高さを紹介し、「福祉用具の有効活用によって介護職員の有効活用にもつながる。効率の良い福祉用具サービスを推進することで介護保険制度が持続できる」とし、現行の仕組みの継続を強く訴えた。

高齢者の実際を知る福祉用具の可能性を体験

高齢者疑似体験セット（固定具や重り）をつけての福祉用具体験のなかで、「起き上がりやすいし、立ち上がりやすい」とは、介護ベッドを使用した古屋副代表の声。高木議員も床からの



賛助会員各位 いつもご協力ありがとうございます



▲車いすのティルト（傾く）機能を体験

デモ機協力
 カワムラサイクル・幸和製作所・シーホネンス・
 星光医療器製作所・ラックヘルスケア（五十音順）
 高齢者疑似体験セット協力 特殊衣料



▲最新の介護ロボットも登場
 「モーター駆動による歩行器」



▲歩行器で歩きやすさを体験

▲モジュール車いすで足こぎ体験



▲（左から）岩元理事長、田村憲久氏、中川理事

自民党議員を訪問し現行の福祉用具サービスの維持を要望

◆田村憲久氏（前厚生労働大臣）を訪問

1月13日、岩元理事長と中川理事が前厚生労働大臣の田村憲久氏を訪問し（写真）、財務省の提案について説明したうえで、福

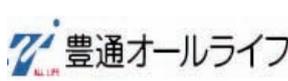
立ち上がりを試し、「良いほうのひざにも負担がかかる」と、高さ調整のできる介護ベッドの有効性を実感した様子。ほかにも車いす、歩行器を実際に体験した。体験後の意見交換では、「車いすのちよっとした工夫（調整機能）があるだけで全然違った。給付が一律に引き下げられることがあってはいけない。しっかり訴えて

いきたい」（矢倉議員）、「福祉用具は生活を助けるとともに回復に向かわせるものだという考えを学んだ」（佐々木議員）など、どの議員からも福祉用具の効果を実感する意見があがった。古屋副代表は、「それぞれの高齢者に合った福祉用具が適切に提供されるよう頑張りたい」とし、視察を締めくくった。

◆鴨下一郎氏（元環境大臣・元厚生労働副大臣）を訪問

1月28日には、酒井博人副理事長も含め、3名で元環境大臣・元厚生労働大臣の鴨下一郎氏を訪問し、同様の説明を行いました。鴨下氏は、財源の制約に言及しつつ、「転倒などによる介護度の悪化によって給付費が増加するより、福祉用具で自立していただいているほうがよい」と話されました。

社用具の利用が高齢者の自立につながることを伝えることができました。田村氏からは、「要介護者は、1・2であれ「介護」が必要なのだから、介護保険の給付対象から外すことは望ましくない」とし、「我々も反対していきまます」と心強い言葉をいただきました。



制度改正！ 福祉用具専門相談員制度はどう変わる？！

2015
10/7
(東京)

「福祉用具専門相談員の専門性の確保」に向けて、厚生労働省は、自己研鑽の努力義務化など、様々な施策を講じている。

このようななか、本会は厚生労働省老人保健健康増進事業(注)の助成を受けて、「より専門的知識及び経験を有する福祉用具専門相談員」を養成する仕組みを検討している。私たち福祉



渡邊 慎一 氏
(わたなべしんいち)

神奈川県作業療法士会
会長 (現顧問)

専門職として信頼されるためには制度や商品知識なども必要



露木 昭彰 氏
(つゆきてるあき)

神奈川県介護支援専門員
協会副理事長

福祉用具1つで生活が変わる。福祉用具専門相談員には、ド〇えもののような存在でいてほしい



白澤 政和 氏
(しらすわまさかず)

桜美林大学大学院老年学
研究科教授

「在宅の限界点を上げる」ため果たすべき役割とは。知識や経験が「身に付いている」ことが必要



岩元 文雄 氏
(いわたとふみお)

本会理事長

職能を高めること、それを社会的に認めてもらうようアピールすること、双方とも欠かせないテーマ



東 祐二 氏
(ひがし ゆうじ)

厚生労働省老健局高齢者支援課
福祉用具・住宅改修指導官

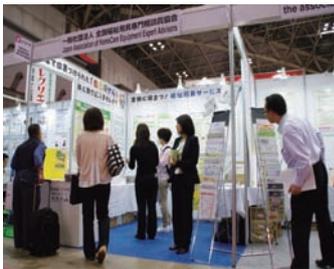
一定レベルをクリアして、なお知識・技術をみがき、経験値としていく。そういう方が増えてほしい

用具専門相談員に求められるものは？ また専門職としての今後の方向性は？ 各方面の知識者に、それぞれの立場から意見を聞いた。

介護人材不足の救世主ともなり得る福祉用具。そのためには福祉用具専門相談員の専門性の向上は不可欠だ。

会場は立ち見ができるほどの盛況ぶり。関心・意識の高さがうかがえた。

◀ 本会のブース。多くの方が立ち寄ってくださいました



(注)専門的知識・経験を有する福祉用具専門相談員の配置に向けた研修カリキュラム等に関する調査研究事業

記念イベント開催

2015
10/8
(東京)

平成14年に策定された「福祉用具の日(10月1日)」を記念して、福祉住環境コーディネーター協会との共催で記念イベントを開催した。

冒頭、本会の岩元理事長は、「福祉用具は日進月歩。超速の進化を遂げている。また供給システムも格段に進化しており、現在では福祉用具が全国津々浦々で活躍している。住宅改修と福祉用具による住環境整備が、超高齢社会において欠かせないインフラとなっている」と語った。

◆記念講演「介護保険制度改正・改定の今と福祉用具・住環境整備のこれから」

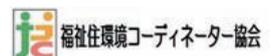
厚生労働省の東指導官(前出)が社会保障費問題、医療と介護の連携、早期認知症対策などに加え、在宅介護における住宅改修・福祉用具の役割等について講演した。



▶講演の様子

◆表彰式・福祉用具専門相談員実力ランキングテスト・総合ランキング上位者を表彰

総合第1位遠藤克文氏(株式会社ヤマシタコーポレーション)ほか4名に、表彰状と記念バッジが授与された。



SVフォローアップ研修を開催。より実践的な講師スキルを習得

2016
2/13
(東京)

2月12日・13日、「福祉用具サービス計画作成SV（スーパーバイザー）養成研修」の修了者を対象に、フォローアップ研修を開催した。「福祉用具サービス計画作成SV」（以下SV）は、指定講習会や地域の研修会などで、福祉用具サービス計画についての講師を務めることを目的に、本会が養成している福祉用具専門相談

員。その養成研修を受けた福祉用具専門相談員が、さらに気づきを得て、より自信をもって講師を務めることができるよう開催したのが、フォローアップ研修だ。

本研修では、まず、福祉用具サービス計画やスーパービジョンの役割についておさらいした。また、講師経験のない受講生の心配事に対して、講師経験者がどのように乗り越えてきたかを話し、ヒントを出し合った。ほかにも、各自持ち寄った事例の報告会を通じ、「計画作成プロセスにおいて重要なこと」を議論し、受講生に伝えるべきポイントを再確認。ロールプレイでは、他者の説明から気付きを得たり、自分の説明を振り返ったりして、指導に活かせる実践力を身

につけた。受講生からは、「わかってい



るつもりが多いので復習になった」「研修する側の考え方を学べた」「講師目線でロールプレイの進め方を実践できた」「いろいろな意見や工夫を知れてよかった」といった感想があったほか、「実際の指定講習を見学したい」といった前向きな意見もあり、今後のSVの活躍に期待できる内容となった。

今年度は74名の新たなSV誕生

昨年度に引き続き、東京・大阪の2会場でSV養成研修を開催しました。2年目となる今年度、新たに誕生したSVは74名。昨年度の99名とあわせて、173名のSVが登録されました。

写真は板橋区おとしよりセンター（東京都）の「福祉用具専門相談員研修会」での様子。事例検討を通じた福祉用具サービス計画の作成方法を教えたのは丸野慎二氏（ヤマシタコーポレーション）。他にもいろいろな地域でSVが活躍し始めています。今後の活躍にも期待!!



フォローアップ研修参加メンバーと講師

福祉用具サービス計画SVに関する詳しい情報は…

http://www.zfssk.com/sp/1411_sv/index.html



ユニチャーム ヒューマンケア株式会社

株式会社 ケーブ

V

福祉用具プランナー研修を開催

2015
8/1~
鹿児島
2015
11/21~
青森

鹿児島県ブロック、青森県ブロック主催で、「福祉用具プランナー研修」を開催した。個々の状態に合わせて福祉用具を適合し、効果的な利用のための専門知識やノウハウを学んだ。

鹿児島県ブロック 担当者コメント

株式会社カクイックススウィング 湯脇稔氏

修了時のアンケートでは、「雰囲気良く気持ち良く学習できた」、「学んだ知識を活かし、増やしていけるようがんばる」等、感謝の言葉をいただきました。鹿児島県ブロックでは、今後も福祉用具プランナー研修を継続開催し、より専門性の高い福祉用具専門相談員の育成、多職種との知識・認識の共有化、そして鹿児島県ブロックの発展に努めていきます。

青森県ブロック 担当者コメント

東洋シルバースービ

株式会社 成田朋広氏

受講者は専門的知識の習得をするとともに講師の方々の熱のこもった研修を受けることで、福祉用具サービス従事者として重要な存在であることを再認識しました。地域での意識改革も含めた資質向上に繋がる研修にできたと思っています。



VI

世田谷区講演会を開催

2015
11/12
(東京)

世田谷区の介護保険課と共催で「介護保険制度改正による福祉用具の動向」訪問調査の実施事例の報告」を開催した。

世田谷区からは、介護保険課長の内田潤一氏にご挨拶いただいたほか、担当職員から、給付の現状について説明・報告があった。

本会からは、「介護保険福祉用具購入に係る訪問調査」に、訪問調査員として携わっている高橋陽介氏(株式会社やさしい手)、依田学氏(株式会社仁済)が、調査事例について発表した。

高橋氏は、「調査は悪いところを見つけるために行っているのではなく、福祉用具をより良く使って頂くために行っている」と強調した。

依田氏は、これまでで唯一、調査によって給付が認められなかった事例を紹介したほか、「調査員として第三者の視点で現場を見られるので、とても勉強になってい」と、自身にとつても訪問調査がプラスになっていくことなどを話した。



依田 学 氏
(よだ まなぶ)
株式会社仁済



高橋 陽介 氏
(たかはし ようすけ)
株式会社やさしい手

VII

シーティング講習会を開催

2016
2/6・7
(東京)

日本シーティング・コンサルタント協会および日本車椅子シーティング協会との合同企画で、「福祉用具に関わる方のためのシーティング講習会(入門編)」を開催した。

講習会では、車いすシーティングの基本を学び、自立に向けた福祉用具の活用や、快適に車いす上で過ごすために必要な工夫、ノウハウなどについて理解を深めた。

実技では、シーティングの基本となる身体各部を触って確認したり、モジュール車いすやティルト・リクライニング車いすの構造を確認した。また、背張りの調整をしたり、圧センサーを使って除圧を体感したり、いろんな設定の車いすを乗り比べてみたり、スライディングボードで移乗体験したりと、とにかく盛りだくさんの充実した内容となった。各団体の講師が講座・実技を担当し、本会からは松崎佐一郎氏(マツザキマテリアル株式会社)が務めた(⑦⑧)。

時間割

- ①講座「シーティングと福祉用具」身体評価の基本を学ぶ
- ②実技「身体計測をしてみよう」身体評価の実施と車椅子調整
- ③講座「車椅子の種類と役割・車椅子シーティングの基礎」
- ④実技「車椅子シーティング実習・背張調整・クッション選定
- ⑤講座「褥瘡予防・摂食嚥下のシーティング」
- ⑥実技「圧センサーで除圧を体感する」
- ⑦講座「車椅子シーティングと福祉用具の活用」
- ⑧実技「福祉用具の活用でひろがる自立支援」



会員の声から、役立つ研修、地域の専門性向上を目指す

喜ばれる研修を企画

雷俊峰氏

(株)ライフ・テクノサービス
総務人事課係長 (三重県津市)

各ブロック（都道府県）には、「研修担当者」という役割の方がいて、地域での研修機会の確保（企画、開催、情報提供など）に向けて活動している。今回は、三重県ブロックの研修担当者である雷俊峰氏に、福祉用具専門相談員の専門性の確保に向けた取り組みや、三重県ブロックの今後の活動についてお話をうかがった。

— 研修担当者として、どのような想いをもって研修機会の確保に取り組まれていますか？

雷氏…ふくせんの趣旨に沿った、福祉用具専門相談員としての資質向上を目標に活動しています。様々な研修を通して、一人一人の福祉用具専門相談員が日頃の相談業務に自信と誇りを持つことで、ご利用者だけでなく、地域社会にも貢献することができると思っています。

— 特にどのようなことに力を入れていますか？

雷氏…これまでの研修で集まったアンケートを参考に、福祉用具専門相談員の苦手な分野を中心に研修を企画し、更なる知識向上を図ることで、外部（県外等）の研修にも積極的に参加し、良い研修は三重県内で開催してもらえよう調整しています。

— 企画・開催は骨が折れると思いますが、苦労されていることはありませんか？

雷氏…研修計画や講師との調整、研修告知、受講者の募集等、様々な不安があります。

— 一方で、やりがいに感じていることはありますか？

雷氏…研修修了後に、受講者から「とても参考になる研修だった」と言って頂いた時が一番うれしいです。次回はもっと良い研修を企画したいという気持ちになります。

— とてもうれしい一言ですね。そういった言葉を原動力にした、今後の展開について聞かせてください。

雷氏…賛助会員にも協力して頂いて研修機会を増やし、県内の会員を増やしていきたいです。また、地域の福祉イベントにも積極的に参加し、地域社会に貢献したいと思っています。また、県内に「福祉用具サービス計画作成SV養成研修」の修了会員が複数名いるので、ゆくゆくは県内でSV養成も行いたいですね。

— さいごに、三重県ブロックの会員にメッセージをお願いいたします。

雷氏…今は県外でしか受けられないような研修を、今後は三重県ブロックが企画してきたいと思っています。是非参加して下さい！

— ありがとうございます。今後のご活躍も楽しみにしています。



雷俊峰氏
(らいとしお)
株式会社ライフ・テクノサービス
総務人事課 係長
※福祉用具専門相談員実務歴6年



ブロック新設と各県ブロック総会のお知らせ

新設 12月3日をもって、新たに秋田県ブロックと鳥取県ブロックを設立しました。これで、47都道府県中、34ブロックが整いました。ブロック長に就任した宮田氏、林氏に一言いただきました。

秋田県ブロック



宮田 敏彦 氏
(みやたとしひこ)
株式会社 かんきょう
常務取締役

この度は、秋田県ブロック設立にご尽力頂きありがとうございました。今後は、専門職として地域社会に貢献出来る様に、研修・イベントを企画出来ればと思います。よろしくお願ひします。

鳥取県ブロック



林 誠 氏
(はやしまこと)
株式会社 ウィードメディカル
代表取締役

今後、鳥取も超高齢化社会を迎え、福祉用具専門相談員の役割は大変重要になっていくと思います。鳥取の相談員の専門性が向上し、高齢者や障がい者が他の地域と同等のサービスが受けられるようがんばります。よろしくお願ひします。

総会 ブロック設立にともない、設立総会を開催します！

研修会の同時開催も検討いたしますので、ぜひ日程を空けておいてください。(詳細は順次ご案内していきます)。

鳥取県ブロック：5月12日(木)

宮城県ブロック：5月26日(木)

なお、山形県ブロックも設立に向けて準備中です！

同じく5月に設立総会を開催できるように準備に努めてまいりますので楽しみにお待ちください。

世田谷区訪問調査新任調査員紹介

本会では、東京都世田谷区が介護給付適正化事業のひとつとして行う「福祉用具購入に係る訪問調査」に協力し、東京都ブロックの会員を調査員として派遣しています。

はじめまして。これから皆様と一緒に勉強し、成長できればと考えております。まだまだ至らぬ点が多くありますが、ご利用者の自立支援に資するアドバイスをしていきますのでよろしくお願ひ致します。



菊池 崇 氏
(きくちたかし)
株式会社 ケアサービス
介護レンタル東京

*詳細はウェブサイトでご覧いただけます
http://www.zfssk.com/sp/1302_chosa/abc_2015.html

新規賛助会員紹介

賛助会員は、本会の活動を支援してくださっています。新規ご入会いただいた企業をご紹介します。

中央法規出版株式会社

主な事業：六法から実務書、一般向け書籍まで出版しています。ふくせんの「福祉用具サービス計画作成ガイドブック」は当社発行です。

株式会社シコク

主な事業：スロープ(「段ない・ス」シリーズ)や手すり(ベストサポート手すりシリーズ)など特徴のある介護福祉用具を開発・製造・販売しています。

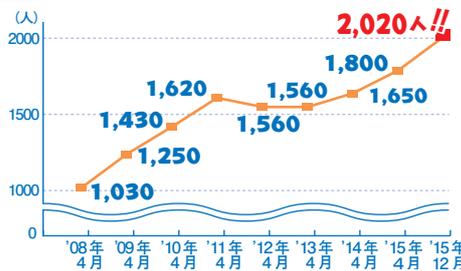
株式会社スマート

主な事業：福祉用具貸与事業者向け業務支援システム「スマートシエイク」の開発、保守管理を行っています。

プラスワン運動 会員数 2千人をこえました！

昨年度から始めた「会員増強プラスワン運動」。おかげさまで、会員数が2千人を超えました！

現在、事業所で実際に稼働している福祉用具専門相談員は3万人近くと言われています。福祉用具サービスの重要性や福祉用具専門相談員の



専門性を伝えていくためには、せめて1割(3千人)の会員数を目指したいと思っております。引き続きご協力をよろしくお願い致します。

ふくせん ふくせんレポート 第013号

発行所
一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会
〒108-0073 東京都港区三田 2-14-7
ローレル三田 404
TEL: 03-5418-7700 FAX: 03-5418-2111
URL: <http://www.zfssk.com/>

編集協力 株式会社 東京コア
発行日 2016年3月1日

